

7. “手を貸さぬ”親の親切

苦しみが子供を鍛える

昔はかなり裕福な家でも、親は毎日生活に追われていて、子供のことを思いやりたくても、その余裕がほとんど

ありませんでした。そのため、子供たちは自分の頭を使って考え、自分の体を使って物事を処理しないわけにはいきませんでした。

それで、頭を使うから頭の働きが活発になり、体を使うから身のこなしが上手になり、体も自然と丈夫になりました。ただ食物が粗末だったので、今の子供のように見かけが良くありませんでしたが、暑さ寒さに強く、ねばりのある強さがありました。

今の子供は、親だちから愛玩物のように扱われて、ちょっと面倒なことは親が見かねて直ぐに手を貸すものですから、子供は、自分の頭を使い手足を使って働くことが極度に少なくなりました。だから、いざという時には頭も手足も働かない、ひ弱な人間になってしまったのです。

しかし、今の子供たちにとって最も不幸なことは、頭や手足の動き

の悪いことよりも、苦しいことに耐え忍ぶ精神の足りないことだと思います。

この世の中には、自分の思い通りになることのほうが少ないので、いやなことでも回避せず、これに立向っていかねばならないことが多くあります。そのため、苦しいことに耐え忍ぶ精神に欠けていた

コラム

部首 甘

の中に“うまい”物を含んでいること。“あまい”こと。音は、“に物を含む”の含(カン)。

【柑】 “甘い実のなる木”という意味の会意形声字。“みかん”のこと。昔は単に、“かん”または“柑子(こうじ)”と言った。

【旨】 ヒと甘の会意形声字。人が甘い物を にして“うまい”と思うことを表した。

【指】 “うまい物をちょいとつまむ”ゆびを表した。

【脂】 “旨い肉”という意味。“あぶらぎった肉”の意味から転じて“あぶら”の意味になった。「油」が液状であるのに対し、「脂」は固形状のあぶらを言う。

ら、成功することはもちろん、社会を生き抜いていくことが難しくなります。

親というものは、わが子が苦しんだり困ったりしているのを見るのがつらいものです。だから、親がわが子の苦しみや悩みを引受けてやりたく思うのは無理もないことだ、と思います。しかし、それは“苗を引張る”行為で決して子供のためになりません。

親が“最悪の教師”に陥りやすいのはこのためです。子供の能力は、子供自身がその苦しみ、悩みと戦い、これを克服して初めて養われるのですから、それを親が肩代りしてやっていたのでは、いつまでたっても子供の力が付きません。親はこのことに思いを致し、手を貸したい気持ちを抑えることが必要です。

「かわいい子には旅をさせよ」という諺は、親がわが子の苦しみ、悩む様を黙って見ていることが出来ないものだから、それで作られた諺だと思います。子供が旅先で遇う苦しみや悩みは親には見えません。その見えないところが良いのです。

幼稚園教育の家庭教育にない良さの一つはそこにあります。親の目の届かない所で、自分の思い通りにいかない生活を余儀なくされ

るところが旅とよく似ていて、それが子供のために良いのです。

ところが、幼稚園生活のつらいところを、子供から根掘り葉掘り聞出して、子供に手を貸そうとする親があります。これでは子供を幼稚園に通わす意味が半減してしまいます。“艱難汝を玉にす”と思い、子供自身にそれを克服させることが肝要です。

コラム



かわいい子には旅をさせよ

「玉も磨かざれば光なし」や「艱難汝を玉にす」と同様、“人間は苦勞を一つ一つ克服することによって能力が養われ、人間としての深みも身に備わってくるものだ”ということ。

【旅】 旗棹に旗がひるがえっている様を表した𠂔と𠂔の変形𠂔とで作られた字。“人々が旗を先頭に立てて進んで行く”こと。

𠂔 𠂔 𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

𠂔 𠂔 旅